

# JAグループ鳥取自己改革推進レポート（9月号）

## （1）全国情勢

JA全中が実施している「JAの自己改革に関する組合員調査」の第1次調査（H30.12～H31.4.30）の結果が公表され、営農関連事業に「満足している」等の肯定的回答が約8割を占める等、肯定的回答が多くを占める結果となった。今後は第2次調査中間結果が11月、調査全体の結果は令和2年5月頃公表される予定である。

また、農林水産省が実施した「農協改革に関するアンケート調査」の結果も公表され、依然として自己改革にかかるJAの自己評価と担い手（認定農業者等）の受け止めにギャップが存在することが判明している。

## （2）JA全農とつとりのJA自己改革の実践

### ① 「ガイナレ鳥取」へ鳥取県産米きぬむすめを贈呈

令和元年7月8日、ガイナレ鳥取への「鳥取県産米きぬむすめ」贈呈式を行った。食を通じた地域貢献の一環として昨年より鳥取県を代表するサッカーチーム「ガイナレ鳥取」へ、メンバーが1年間で食べる分のお米を2トン提供している。ガイナレ鳥取岡野GMは「きぬむすめを頂いてから選手の体が大きくなり、相手チームの選手に当たっても倒れなくなった。このような形で支援していただき本当にありがたい。」と話した。



### ② TACアグリビジネススクールを開催

営農（技術・地域振興・経営など）に関する知識習得・事例などの共有を図るため、担い手農家・JA-TACを対象としたTV研修を年10回開催している。多くの方が出席していただけるよう五反田事務所と米子事業所の2ヶ所を開催場所とし、農業生産だけでなく加工・販売、経営の知識を深めていただいている。全農ではこれからも担い手農家が実感できる支援を行っていく。

#### <2019年度開催日程およびカリキュラム（予定）>

回	日程	時間	テーマ
1	6月5日(水)	10:00~15:00	消費動向を踏まえた生産販売の取り組み
2	7月2日(火)	10:00~15:00	省力・低コスト資材、技術情報①
3	8月6日(火)	13:00~15:00	直近の農業情勢①
4	9月4日(水)	13:00~15:00	農業現場における労務管理
5	10月2日(水)	13:00~15:00	直近の農業情勢②
6	11月6日(水)	10:00~15:00	会計・税務研修①
7	12月4日(水)	10:00~15:00	会計・税務研修②
8	1月7日(火)	10:00~15:00	会計・税務研修③
9	2月5日(水)	13:00~15:00	省力・低コスト資材、技術情報②
10	3月4日(水)	13:00~15:00	労働力支援

### ③ 鳥取発！全国そして世界へ 鳥取県産梨PRに全力投球

鳥取県産梨の出荷がピークを迎えており、令和元年8月27日に大阪で、30日に東京で鳥取県産二十世紀梨出荷セレモニーを行った。セレモニーには鳥取県知事をはじめ生産者の代表者、JA、わかとりメイツ等が出席し「今年の出来栄は糖度、玉太りともに素晴らしい仕上がりだ」と卸売会社や仲卸にPR。

また、県内のみならず9月6日には台湾へも販売促進に出向き、現地のメディアや消費者に鳥取県の「新甘泉」をPR。



### ④ 中央家畜市場係留場にミスト扇風機を設置

鳥取中央家畜市場の係留場へミスト付き扇風機を設置した。

7月のセリでは、フル稼働し冷たい風が流れて上場を終えた牛たちも気持ちよさそうに過ごしていた。

これからも牛たちはもちろん、生産者や全国から来てくださる購買者のため市場環境の整備を進めていく。



### (3) 第19回JAバンク鳥取年金友の会グラウンド・ゴルフ県大会を開催（JA鳥取信連）

JAバンク鳥取は、令和元年7月19日(金)に“第19回JAバンク鳥取年金友の会グラウンド・ゴルフ県大会”を鳥取市伏野の白兔グラウンド・ゴルフ場で開催した。

今大会は、各JAの予選を勝ち抜いた精鋭36チーム総勢216名により熱戦が繰り広げられた。また、JAの金融担当部長や、参加チームの管轄店舗の支所(店)長などの出席を得て、参加チームの応援など大会をサポートいただいた。

JA年金友の会は、会員の親睦と健康の保持増進、明るく豊かな暮らしを築くことを目的に、様々な活動を実施している。JAバンク鳥取は、今後も地域と共に発展してきた組織として、地域貢献を使命と考え、地域に根差した活動をサポートしていく。

#### (4) JA共済連鳥取のJA自己改革の実践

##### ① JA共済 農業リスク診断活動の取組み

農業就業人口の減少や高齢化が進行するなか、農業における死亡事故は高水準で推移しており、危険業種と言われる建設業を大きく上回る発生率となっている。

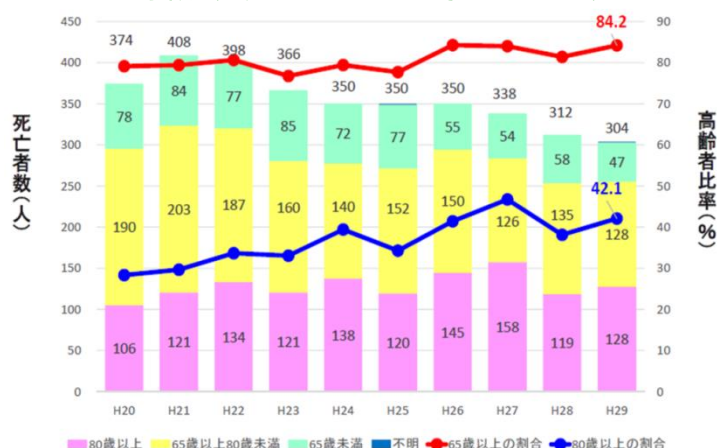
そこで、JA共済では農業者に対して、農業経営を取り巻くリスクに関する意識喚起を行うとともに、リスク対策の有無の確認を行い、明らかになったリスクに対する保障提案等を行う

「農業リスク診断活動」を実施している。

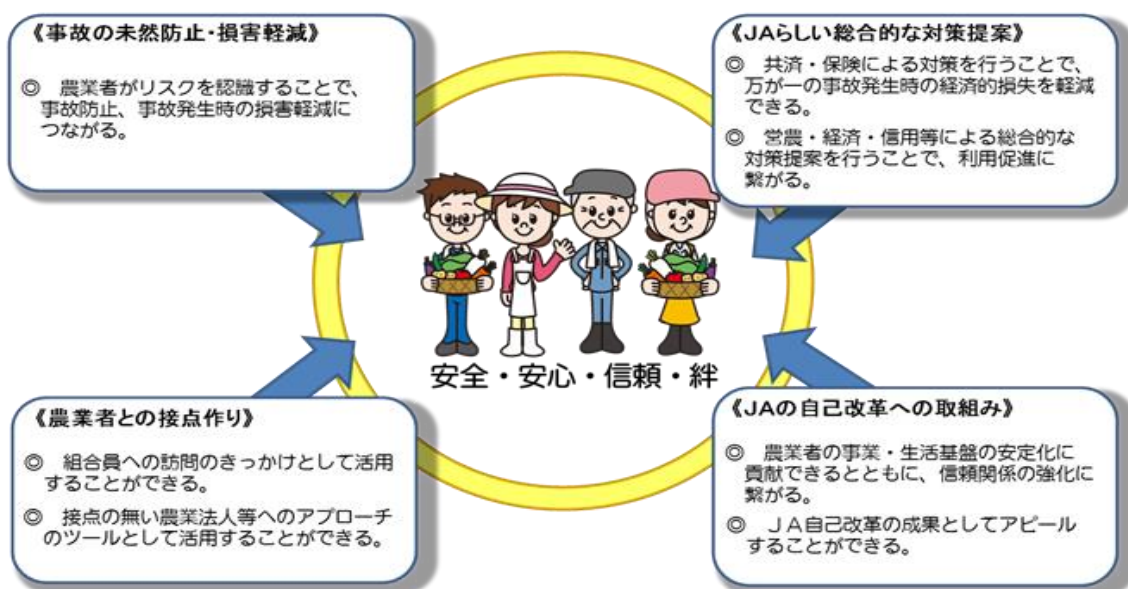
本会では農業リスク診断活動を平成30年度からスタートしており、県下3JAで農業リスク診断活動の実績がある。診断にはタブレット端末機（タブレット機器）を活用し、システムにてリスクに対する「関心」や「備えの有無」を分かりやすく確認できる。また、農業リスク診断活動をきっかけに、農業者が農業を取り巻くリスクを認識することで、事故防止や事故が発生したときの損害軽減につながることも期待される。

JA共済では、今後も農業リスク診断活動を通じて、農業者に対して安心・満足を提供して農業者との更なる関係強化を図っていく。

農作業中における死亡事故の発生状況



##### 農業リスク診断活動のイメージ



##### ② 実業高校への教育実習機器の寄贈

##### ③ 第8回JA共済むてきカップ学童軟式野球鳥取県大会を開催

##### ④ 「交通安全啓発資材」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

※別添資料参照